

平成18年度学会発表・講演等一覧

[企画部]

- ◇第35回国土地理院技術研究発表会 平成18年6月1日 新宿明治安田生命ホール（東京都新宿区）
 - ・国際協働における国土地理院の役割：佐藤潤
- ◇平成18年度国土交通省国土技術研究会 平成18年10月24, 25日 都市センターホテル（東京都千代田区）
 - ・国土地理院における「だいち（ALOS）」データの利用：大滝修

[測地部]

- ◇日本地球惑星科学連合2006年大会 平成18年5月14日～18日 幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）
 - ・地震による基準点成果の変化を効率的に補正する手法について：田中愛幸・齋田宏明・平井英明・山田明
 - ・球対象地球モデルを用いた粘弾性余効変動理論の拡張について：田中愛幸・奥野淳一（東京大学）・大久保修平（東京大学）
 - ・SAR観測が捉えた2005年パキスタン北部地震の地殻変動（1）：概要と干渉SAR：藤原智・仲井博之・藤原みどり・飛田幹男（地理地殻活動研究センター）・矢来博司（地理地殻活動研究センター）
 - ・SAR観測が捉えた2005年パキスタン北部地震の地殻変動（3）：現地調査と断層モデル：藤原智・小沢慎三郎（地理地殻活動研究センター）・佐藤浩（地理地殻活動研究センター）・飛田幹男（地理地殻活動研究センター）
 - ・IVS CONT05 キャンペーン観測解析結果：高島和宏・石本正芳・町田守人・藤咲淳一・小門研亮
 - ・干渉SAR地表変位計測でのL-bandとC-bandの比較及び国土地理院における「だいち」L-band干渉SAR解析処理計画：藤原みどり・仲井博之（国土交通大学校）・藤原智・飛田幹男（地理地殻活動研究センター）
 - ・VLBI観測データのグローバル解析：小門研亮・藤咲淳一・高島和宏
 - ・自然直交基底法による繰り返し磁気観測データの化成：紀小麗・白井宏樹・鈴木啓・何金蘭・宇津木充（京都大学）
 - ・改良された重力ジオイド・モデルを基盤とした屋久島および南薩地域における混合ジオイド・モデルの検討：野村勝弘・渡辺政幸・森田和幸・板橋昭房・黒石裕樹（地理地殻活動研究センター）
- ◇長崎シンポジウム2006 平成18年5月31日～6月2日 長崎大学（長崎県長崎市）
 - ・International Geodetic VLBI Observation（国際的な測地VLBI観測）：小門研亮
- ◇第35回国土地理院技術研究発表会 平成18年6月1日 新宿明治安田生命ホール（東京都新宿区）
 - ・国際的なVLBI観測：高島和宏
 - ・アジア太平洋地域地殻変動監視：松坂茂
- ◇電子情報通信学会 宇宙・航行エレクトロニクス研究会 平成18年6月21, 22日 宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター（茨城県つくば市）
 - ・衛星搭載SARによる地殻変動観測 -PALSARへの期待-：藤原智・飛田幹男（地理地殻活動研究センター）
- ◇第4回宇宙ミッションシンポジウムー安全・安心に役立つ宇宙ミッションー 平成18年7月5日 東京

大学生産技術研究所（東京都目黒区）

・” だいち” 干渉 SAR で見る地震・火山：藤原智

◇5th International e-VLBI Workshop（第5回 国際 e-VLBI ワークショップ）平成18年9月17日～20日 米国マサチューセッツ工科大学ヘイスタック観測所（アメリカ合衆国マサチューセッツ州ウエストフォード）

・The current status of K5 eVLBI intensive session（K5 eVLBI 集中セッションの状況）：高島和宏・町田守人・藤咲淳一・小門研亮・重松宏実

◇第12回 PCGIAP 総会 平成18年9月18日～22日 タイ国バンコク市

・GPS network experience in Japan and its usefulness in Disaster Management（日本における GPS 観測網の経過状況と災害対策への有効性）：松坂茂

◇平成18年度 東京大学地震研究所共同利用（研究集会）「新世代の干渉 SAR」平成18年10月5, 6日 東京大学地震研究所（東京都文京区）

・国土地理院の干渉 SAR 事業計画の概要：和田弘人・松坂茂・藤原智・藤原みどり・雨貝知美・島田政信（JAXA）

・GPS を用いた水蒸気擾乱指数の作成と干渉 SAR への応用：雨貝知美・藤原智・高島和宏・松坂茂・仲井博之（国土交通大学校）

◇第26回極域地学シンポジウム 平成18年10月12, 13日 国立極地研究所（東京都板橋区）

・Measurement of Ice Sheet Movement around S16 Antarctica by GPS Observation（GPS 観測による南極大陸 S16 周辺の氷床変動）：岡村盛司

・Monitoring Local Crustal Deformation by using the GPS Remote Base Station in Langhovde（V）（ラングホブデ GPS 固定点による露岩域変動測定（V））：岡村盛司

◇2006年度 VLBI 懇談会シンポジウム 平成18年12月25日～27日 鹿児島大学（鹿児島県鹿児島市）

・機関報告：国土地理院：高島和宏・重松宏実・町田守人・藤咲淳一・小門研亮

・JADE 観測スケジュールについて：小門研亮・藤咲淳一・高島和宏

・1m 級アンテナを用いた比較基線場検定用 VLBI システムの開発：石井敦利（エイ・イー・エス）・藤咲淳一・高島和宏・市川隆一（NICT）・瀧口博士（NICT）・久保木裕充（NICT）・小山泰弘（NICT）・中島潤一（NICT）

◇平成18年度 京都大学防災研究所 共同研究 「宇宙測地・リモートセンシング技術による地殻変動研究の発展」平成19年1月18, 19日 京都大学（京都府宇治市）

・国土地理院におけるだいち「ALOS」のデータを用いた干渉 SAR 解析による地殻変動の監視と解析結果の提供：藤原みどり・松坂茂・雨貝知美・和田弘人・飛田幹男（地理地殻活動研究センター）・矢来博司（地理地殻活動研究センター）

◇第6回 IVS 技術開発センターシンポジウム 平成19年3月9日 情報通信研究機構 鹿島宇宙技術センター（茨城県鹿嶋市）

・比較基線場における測量用機器の検定：野神憩

・1m 級アンテナを用いた比較基線場検定用 VLBI システムの開発：石井敦利（エイ・イー・エス）・市川隆一（NICT）・瀧口博士（NICT）・久保木裕充（NICT）・木村守孝（NICT）・中島潤一（NICT）・小山泰弘（NICT）・藤咲淳一・高島和宏

・Current status at Tsukuba K5 Correlator（つくば相関局の K5 相関器の現況）：町田守人・高島和宏・重松宏実・岩田悦郎・藤咲淳一・小門研亮・松坂茂・農澤健太郎（エイ・イー・エス）・谷本大輔（エ

イ・イー・エス)

- ・e-VLBI observation at Tsukuba-32m VLBI station (つくば32mVLBI 観測局における e-VLBI 観測) : 小門研亮・藤咲淳一・高島和宏・谷本大輔 (エイ・イー・エス)

[測図部]

- ◇第35回国土地理院技術研究発表会 平成18年6月1日 新宿明治安田生命ホール (東京都新宿区)
 - ・陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS) の校正検証と期待される成果: 田中宏明
- ◇日本写真測量学会平成18年度年次学術講演会 H18年7月6, 7日 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
 - ・SPOT5 ステレオ画像を用いた等高線図化の精度検証: 笹川啓・小井土今朝己・田中宏明
 - ・航空機MSSによる都市熱環境調査: 柴田光博・小井土今朝己
 - ・Kuバンド航空機SAR画像による判読調査: 小井土今朝己・田中宏明
- ◇日本写真測量学会平成18年度年秋季学術講演会 H18年11月23, 24日 松江勤労者総合福祉センター (島根県松江市)
 - ・ALOS/PRISMによる標高抽出の試み: 水田良幸・小井土今朝己
 - ・緊急撮影時のGPS/IMU精度の現状: 渡部金一郎・小井土今朝己・柴田光博

[地理調査部]

- ◇日本リモートセンシング学会第40回(平成18年度春期)学術講演会 平成18年5月18, 19日 千葉大学 (千葉県千葉市)
 - ・MODISの年間時系列データを用いた土地被覆分類: 米田恵美子 (中日本航空)・宮坂聡 (中日本航空)・永山透・岡谷隆基 (国土交通省総合政策局)・沼田佳典・山田美隆
- ◇第35回国土地理院技術研究発表会 平成18年6月1日 新宿明治安田生命ホール (東京都新宿区)
 - ・地球地図 ー日本発、国際協力による初の世界地図の完成に向けてー: 永山透
- ◇ASTERワークショップ 平成18年6月9日 TEPIAプラザ4階 TEPIAホール (東京都港区)
 - ・Development of Land Cover Data for Urban Heat Island Monitoring and Simulation by Combination of ASTER Data and Framework Geographic Dataset (都市のヒートアイランド現象の監視とシミュレーションのためのASTERデータと基盤地理情報の組み合わせによる土地被覆データの整備): 永山透・岡谷隆基 (国土交通省総合政策局)・沼田佳典・山田美隆
- ◇ISPRS Technical Commission VI Symposium (E-LEARNING AND THE NEXT STEPS FOR EDUCATION) 平成18年6月27日~30日 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区)
 - ・APPLICATION OF GLOBAL GEOGRAPHIC FRAMEWORK DATA FOR EDUCATION -GLOBAL MAP- (地球地図の教育分野への適用事例): 小清水寛・丸山弘通・木佐貫順一・永山透・榎場新一・安部雅俊・岸本紀子・岡谷隆基 (国土交通省総合政策局)
- ◇日本写真測量学会平成18年度年次学術講演会 平成18年7月6, 7日 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
 - ・ヒートアイランド現象の解明・対策に資する土地被覆整備の試み: 永山透・岡谷隆基 (国土交通省総合政策局)・沼田佳典・山田美隆・堀野正勝 (測量調査技術協会)・斉藤和也 (アジア航測)・赤松幸雄 (国際航業)・沼田洋一 (アジア航測)・森大 (国際航業)・望月貴一郎 (パスコ)・宮坂聡 (中日本航空)
- ◇東京大学空間情報科学研究センター第9回年次シンポジウム 平成18年10月4, 5日 東京大学空間情報科学研究センター (千葉県柏市)

- ・航空レーザ測量による「数値地図5mメッシュ(標高)」等の整備と利活用について：大塚孝泰
- ◇第8回日韓共同GISセミナー(地理情報システム学会設立15周年記念国際シンポジウム) 平成18年10月17日 日本大学文理学部百周年記念館(東京都世田谷区)
 - ・GLOBAL MAPPING PROJECT BY NATIONAL MAPPING ORGANIZATIONS ON THE GLOBE(全世界の国家地図作成機関による地球地図プロジェクト)：丸山弘通・坂部真一・木佐貫順一・永山透・小清水寛・安部雅俊・榎場新一・鶴生川太郎
- ◇平成18年度国土交通省国土技術研究会 平成18年10月24, 25日 都市センターホテル(東京都千代田区)
 - ・「1:25,000 デジタル標高地形図」の作成：大塚孝泰
- ◇日本国際地図学会平成18年度定期大会 平成18年10月26, 27日 東京都産業貿易センター(東京都港区)
 - ・「数値地図5mメッシュ(標高)」を活用した地形表現事例：門脇利広
 - ・地図における地形表現の変遷：坂井尚登
 - ・航空レーザ測量データを用いた災害情報図作成ー信濃川下流域における「平成16年7月新潟・福島豪雨災害情報図」作成事例ー：安藤久満
- ◇GSDI-9(第9回全地球空間データ基盤会議) 平成18年11月3日～11日 Historical & Military Museum(チリ国サンティアゴ)
 - ・GLOBAL MAPPING PROJECT BY NATIONAL MAPPING ORGANIZATIONS ON THE GLOBE(全世界の国家地図作成機関による地球地図プロジェクト)：坂部真一・丸山弘通・木佐貫順一・永山透・小清水寛・安部雅俊・榎場新一・鶴生川太郎
- ◇2006年度日本雪氷学会全国大会 平成18年11月15日～17日 秋田市民交流プラザALVE(秋田県秋田市)
 - ・新潟県中越地震後に発生した雪崩の特徴と雪崩発生予測：関口辰夫・秋山一弥(国土技術政策総合研究所)・西村浩一(新潟大学)・佐藤篤司(防災科学技術研究所)・佐藤浩
 - ・表層雪崩発生斜面の地形的特徴：関口辰夫・秋山一弥(国土技術政策総合研究所)・松田宏(国際航業)・西村浩一(新潟大学)
- ◇日本写真測量学会平成18年度秋季学術講演会 平成18年11月23, 24日 松江勤労者総合福祉センター(島根県松江市)
 - ・多時期のASTERデータを用いた土地被覆分類：角田里美(アジア航測)・沼田洋一(アジア航測)・斉藤和也(アジア航測)・永山透・岡谷隆基(国土交通省総合政策局)・沼田佳典・山田美隆
- ◇斜面災害危険度解析と持続的斜面災害管理に関するIPLシンポジウム 平成19年1月23日 国連大学(東京都渋谷区)
 - ・Geomorphological feature of debris flow disaster induced by the July 2006 heavy rainfall in Nagano Prefecture Japan(長野県2006年7月豪雨による土石流災害の地形的特徴)：関口辰夫・北原敏夫・田口益雄
- ◇千葉大学環境リモートセンシング研究センター共同利用研究発表会 平成19年2月28日 千葉大学(千葉県千葉市)
 - ・地球地図プロジェクトにおける土地被覆データの作成と公開：建石隆太郎(千葉大学)・金子純一・永山透・岡谷隆基(国土交通省総合政策局)・山田美隆・沼田佳典

[地理空間情報部]

- ◇東京大学空間情報科学研究センター第9回年次シンポジウム 平成18年10月4,5日 東京大学空間情報科学研究センター(千葉県柏市)
 - ・電子国土情報集約システムについて:河瀬和重
- ◇日本国際地図学会平成18年度定期大会 平成18年10月26,27日 東京都産業貿易センター(東京都港区)
 - ・「触地図原稿作成システム」の開発:山本陽子・椎橋真澄・三橋一文
 - ・地理史料の公開:南昌代・鎌田高造
 - ・数値地図標高データの新旧作成方法の違いについて:安藤暁史・飯田洋・増山収・阿部誠・高桑紀之・椎橋真澄
 - ・21世紀の社会を支える「電子国土」:河瀬和重

[測地観測センター]

- ◇日本地球惑星科学連合2006年大会 平成18年5月14日~18日 幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)
 - ・国土地理院のGPS連続観測網(GEONET)によって検出された地すべり変動(Landslide motion detected by GPS-based stations network(GEONET)):小清水寛・熊木洋太(地理地殻活動研究センター)
- ◇第35回国土地理院技術研究発表会 平成18年6月1日 新宿明治安田生命ホール(東京都新宿区)
 - ・国際GNSS事業(IGS)の活動における国土地理院の貢献:畑中雄樹
- ◇測地・地殻変動に関する研究集会 平成18年9月20日~22日 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール(京都府京都市)
 - ・GEONETのレビュー:畑中雄樹
- ◇平成18年度国土交通省国土技術研究会 平成18年10月24,25日 都市センターホテル(東京都千代田区)
 - ・地殻変動監視支援システム開発に関する研究:石本正芳
- ◇アジア太平洋地域における持続可能な開発のための統合的観測に関するGEOSSシンポジウム 平成19年1月11,12日 第一ホテル東京シーフォート(東京都品川区)
 - ・Observation of crustal deformation of the Japanese islands by GEONET (GEONETによる日本列島の地殻変動観測):畑中雄樹

[地理地殻活動研究センター]

- ◇EGU2006総会(欧州地球科学連合2006年総会) 平成18年4月2日~7日 オーストリア国ウィーン市
 - ・Regional gravity field modeling from GRACE data - test case for the vicinity of Japan (GRACEデータからの地域的重力場の決定-日本周辺における試験事例):黒石裕樹・D.D. Rowlands(米国ゴダード宇宙飛行センター)・F.G.R. Lemoine(米国ゴダード宇宙飛行センター)
- ◇日本地すべり学会「2005年パキスタン地震による地すべり災害緊急報告」 平成18年5月12日 東京大学弥生講堂一条ホール(東京都文京区)
 - ・衛星画像で検知したパキスタン北部地震の地殻変動と判読による地すべり分布:佐藤浩・宇根寛・藤原智(企画部)
- ◇日本地球惑星科学連合2006年大会 平成18年5月14日~18日 幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)

市)

- ・新時代の地球観を切り開く日本の衛星「だいち：ALOS」：村上亮
 - ・地殻変動が示唆する伊豆大島火山のマグマ供給系ーダイク性圧力源ー：村上亮
 - ・2005年8月16日の宮城県沖の地震の余効変動：水藤尚・小沢慎三郎・今給黎哲郎
 - ・豊後水道ゆっくり地震におけるプレート間滑りの時空間変化：小沢慎三郎・水藤尚
 - ・A fault model of the 1993 Klamath Falls earthquakes estimated from SAR interferometry (干渉 SAR 解析から推定された、1995年 Klamath Falls 地震の断層モデル：Hiroshi Yarai・Chuck Wicks (USGS))
 - ・測地データから推定された1952年と2003年の十勝沖地震のすべり分布比較：西村卓也
 - ・東海スロースリップイベントは終わったのか？：水藤尚・小沢慎三郎・今給黎哲郎
 - ・重力衛星 GRACE 観測からの日本周辺の地域的な重力場決定ー序報：黒石裕樹
 - ・SAR 観測が捉えた2005年パキスタン北部地震の地殻変動(2)：SAR 画像マッチングと三次元変動マップ：飛田幹男・西村卓也・小沢慎三郎・藤原智(企画部)
 - ・だいち(ALOS)衛星搭載合成開口レーダーPALSARの力：飛田幹男・島田政信(JAXA)・藤原智(企画部)
 - ・Validation of the ocean mass variations from GRACE by Tsunami gauges (重力観測衛星 GRACE により計測された海洋質量変化の津波計を用いた評価について)：Hiroshi Munekane
 - ・環境計画評価のための時系列国土情報の利活用：小荒井衛
- ◇平成18年度第1回動体計測研究会 平成18年5月24日 東京大学生産技術研究所(東京都目黒区)
- ・米軍写真と旧版地形図を利用した景観再現の試み：長谷川裕之
- ◇システム農学会2006年度春季シンポジウム 平成18年5月25日 茨城県つくば市研究交流センター(茨城県つくば市)
- ・米軍写真を用いた終戦直後の自然環境の定量的再現：長谷川裕之
- ◇第35回国土地理院技術研究発表会 平成18年6月1日 新宿明治安田生命ホール(東京都新宿区)
- ・人工衛星レーダー画像分析による災害全体像の把握：飛田幹男
- ◇第25回 ISTS (宇宙測地技術および科学の国際シンポジウム) 金沢大会 平成18年6月9日 金沢市観光会館(石川県金沢市)
- ・DETECTION OF CRUSTAL DEFORMATION OF THE NORTHERN PAKISTAN EARTHQUAKE BY SATELLITE DATA (人工衛星データから検出したパキスタン北部地震における地殻変動)：宇根寛・藤原智(企画部)・飛田幹男・小沢慎三郎・佐藤浩・小荒井衛
- ◇MYRES II (第2回地球科学若手研究者集会) 平成18年7月2日~6日 イタリアベルバニア市
- ・Comparison of slip distribution of the 1952 and 2003 Tokachi-oki earthquakes estimated from the geodetic data. (測地データによる1952年と2003年十勝沖地震のすべり分布比較)：西村卓也
- ◇日本写真測量学会平成18年度年次学術講演会 平成18年7月6,7日 パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)
- ・災害判読特性の視点から見た各種衛星画像の比較検証ーパキスタン北部地震の例ー：小荒井衛・佐藤浩・宇根寛・熊木洋太
 - ・航空レーザ測量データを用いた葉面積指数マッピングの試み：佐藤浩・小荒井衛・江田敏幸(プラトー研究所)
 - ・白神山地における航空ハイパースペクトルセンサを用いたブナとサワグルミの判別について：佐藤浩・宮坂聡(中日本航空)

- ・LIDAR データを用いた建物と樹木の抽出と判別：長谷川裕之
 - ・旧版地図・航空写真による地形変化（盛土・切土）の把握：長谷川裕之・小荒井衛・佐野滋樹・山本尚（玉野総合コンサルタント）
- ◇Western Pacific Geophysics Meeting（西太平洋地球物理学会議） 平成18年7月24日～27日 中華人民共和国北京
- ・Comparison of slip distribution of the 1952 and 2003 Tokachi-oki earthquakes estimated from the geodetic data.（測地データによる1952年と2003年十勝沖地震のすべり分布比較）：西村卓也
 - ・Regional gravity field modeling from GRACE data for improvement of geoid modeling for Japan（日本のジオイド決定を改良するためのGRACEデータからの地域的重力場の決定）：黒石裕樹・D. D. Rowlands（米国ゴダード宇宙飛行センター）・F. G. R. Lemoine（米国ゴダード宇宙飛行センター）
 - ・Validation of the Ocean Mass Variations From GRACE by Tsunami Gauges（GRACEにより推定された海洋質量変化の、津波計による検証）：宗包浩志
- ◇IGARSS 2006（2006年国際地球科学及びリモートセンシング部会） 平成18年7月30日～8月1日 アメリカ合衆国コロラド州デンバー
- ・衛星合成開口レーダー画像解析による2005年パキスタン北部地震の三次元変動：飛田幹男・藤原智（企画部）
- ◇日本第四紀学会2006年創立50周年大会 平成18年8月4日～6日 首都大学東京（東京都八王子市）
- ・茨城県北西部丘陵に分布する第四系の層序と年代：大井信三・山家慎之介（茨城大学）・安藤寿男（茨城大学）・岡田誠（茨城大学）
- ◇IAU 26th General Assembly（第26回国際天文学連合総会） 平成18年8月14日～25日 チェコ国プラハ
- ・Atmospheric excitation of UT1 variations during CONT05 campaign（CONT05キャンペーン期間中ににおけるUT1変動の気象による励起）：眞崎良光
- ◇Kanto Asperity Workshop 平成18年8月28日～31日 湘南国際村センター（神奈川県葉山町）
- ・Expected geodetic signal at the proposed drilling sites（掘削計画位置において期待される測地観測データ）：西村卓也
- ◇測地・地殻変動に関する研究集会 平成18年9月20日～22日 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール（京都府京都市）
- ・時間依存のインバージョン：小澤慎三郎
- ◇2006年日本地理学会秋季学術大会 平成18年9月23, 24日 静岡大学浜松校舎（静岡県浜松市）
- ・2005年パキスタン北部地震による斜面崩壊の方位と地表変位の関係について：宇根寛・佐藤浩・飛田幹男
 - ・白神山地におけるリモートセンシングデータを用いた地生態学図作成の研究：佐藤浩・小荒井衛・岩橋純子・牧田肇（弘前大学）・八木浩司（山形大学）
 - ・精度・分類項目の異なる時系列地理情報を活用した土地被覆（植生）変化の把握：小荒井衛・長谷川裕之
 - ・高分解能衛星画像の地物・災害状況の判読特性のカタログ化：小荒井衛・天野一男（茨城大学）
- ◇国際GIS公開ワークショップ 平成18年9月26日 新潟大学（新潟県新潟市）
- ・GIS present situation in Japan（日本のGISの現状と動向）：小荒井衛
- ◇東京大学空間情報科学研究センター第9回年次シンポジウム 平成18年10月4, 5日 東京大学空間情

報科学研究センター（千葉県柏市）

- ・電子タグを利用した測位と安全・安心の確保 1. 電子タグを利用したシームレス測位・効率的な測量システムの開発：神谷泉・小荒井衛・松坂茂（測地部）・平井英明（測地部）・田中愛幸（測地部）
- ・迅速測図・米軍写真を活用した土地被覆（植生）変化の把握：小荒井衛・長谷川裕之・杉村尚（自然環境研究センター）・吉田剛司（自然環境研究センター）

◇東京大学地震研究所研究集会「新世代の干渉 SAR」 平成 18 年 10 月 5, 6 日 東京大学地震研究所（東京都文京区）

- ・東京大学地震研究所研究集会「新世代の干渉 SAR」：飛田幹男

◇Geodetic Reference Frames 2006（測地基準系 2006） 平成 18 年 10 月 9 日～13 日 ドイツ国ミュンヘン

- ・An Attempt to Estimate UT1 Variations from Atmospheric Pressure Data（気圧データから UT1 変動を推定する試み）：眞崎良光

◇The 27th Asian Conference on Remote Sensing（第 27 回アジアリモートセンシング会議） 平成 18 年 10 月 9 日～13 日 モンゴル国ウランバートル市

- ・Development of orientation and DEM/orthoimage generation program for ALOS PRISM（ALOS PRISM のための標定、DEM・オルソ画像作成プログラムの開発）：神谷泉

◇第 15 回地理情報システム学会研究発表会 平成 18 年 10 月 17, 18 日 日本大学文理学部世田谷キャンパス百周年記念館（東京都世田谷区）

- ・国土変遷アーカイブデータを活用した多摩丘陵での植生遷移の把握：小荒井衛・長谷川裕之・杉村尚（自然環境研究センター）・吉田剛司（自然環境研究センター）

◇日本測地学会第 106 回講演会 平成 18 年 10 月 18 日～20 日 奥州市文化会館 2 ホール（岩手県奥州市）

- ・火山変動観測 GPS 統合処理実験装置の開発：今給黎哲郎・村上亮・山田晃子・水藤尚・瀧山弘明（気象庁）・山里平（気象研究所）・横田崇（気象庁）
- ・1930 年伊東沖群発地震のダイク貫入モデル：西村卓也・村上亮
- ・2005 年 9 月の UT1 変動とジェット気流の蛇行との関係：眞崎良光
- ・地下水位変化による地盤上下変動：飛田幹男・黒石裕樹・福崎順洋・宗包浩志・国土地理院構内水準測量チーム

- ・K5 を用いた昭和 VLBI 観測とその解析結果：福崎順洋・土井浩一郎（国立極地研究所）・渋谷和雄（国立極地研究所）

- ・重力衛星 GRACE 観測からの日本周辺の重力場復元—第 2 報：黒石裕樹・F. G. R. Lemoine（米国ゴダード宇宙飛行センター）・D. D. Rowlands（米国ゴダード宇宙飛行センター）

- ・季節的上下変動の相互評価：宗包浩志

- ・干渉 SAR 解析で明らかになった伊豆半島内陸部における隆起変動の空間分布：矢来博司・村上亮・飛田幹男・藤原智（企画部）・西村卓也

- ・伊豆東部の群発地震活動に先行する地殻変動：村上亮

◇日本火山学会 2006 年度秋季大会 平成 18 年 10 月 23 日～25 日 リゾートホテル阿蘇いこいの村（熊本県阿蘇市）

- ・磐梯火山と安達太良火山のハザードマップに関する一考察：小荒井衛・藤縄明彦（茨城大学）

- ・多機関 GPS 連続観測データの統合解析により見出された十勝岳の火山性地殻変動：山田晃子・村上亮・宗包浩志・瀧山弘明（気象庁）・山里平（気象研究所）・横田崇（気象庁）・岡崎紀俊（北海道立地質研

研究所)・田村慎(北海道立地質研究所)・高橋浩晃(北海道大学地震火山研究観測センター)・笠原稔(北海道大学地震火山研究観測センター)

- ・伊豆東部の群発地震活動に先行する地殻変動：村上亮

◇平成18年度国土交通省国土技術研究会 平成18年10月24, 25日 都市センターホテル(東京都千代田区)

- ・国土変遷アーカイブを用いた盛切改変地の抽出：長谷川裕之

◇日本地震学会2006年秋季大会 平成18年10月31日～11月2日 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

- ・測地データによる1973年根室半島沖地震(M7.4)のすべり分布：西村卓也
- ・東海スロースリップの新たな展開の可能性：水藤尚・小沢慎三郎
- ・伊豆東部の群発地震活動に先行する地殻変動：村上亮
- ・2003年以降に見られる岩手付近のプレート間カップリング：小沢慎三郎
- ・台湾 Longitudinal Valley におけるクリープ変動—干渉 SAR 解析による検出—：矢来博司・橋本学(京都大学防災研究所)・飛田幹男

◇The 6th Joint Meeting of The UJNR Panel on Earthquake Research (天然資源の開発利用に関する日米会議地震調査部会第6回合同部会) 平成18年11月8日～11日 徳島東急イン(徳島県徳島市)

- ・Recent state of interplate coupling in Tokai region (東海地方のプレート間カップリングの最近の状況)：水藤尚
- ・Geodetic constraint on slip distribution of three megathrust earthquakes along the Kuril trench northern Japan (千島海溝沿いに発生した3つの大地震の滑り分布に関する測地データ解析)：西村卓也
- ・Transient crustal deformation in the Bungo Channel southwest Japan (豊後水道における非地震性のプレート間滑り)：小沢慎三郎
- ・Three-Dimensional Displacement Field of the 2005 Northern Pakistan Earthquake Measured by SAR Image Offsets (SAR画像マッチングによる2005年パキスタン北部地震の三次元地殻変動マップ)：飛田幹男
- ・Transient Crustal Deformations Prior to Swarm Seismicity in the Eastern Izu Monogenetic Volcanic Field Central Japan (伊豆東部単性火山群周辺で発生する群発地震に先行する地殻変動)：村上亮
- ・Two types of coseismic uplift shown by raised former shoreline data along the subduction zone of the Philippine Sea Plate (旧汀線データが示すフィリピン海プレート沈み込み帯の2種類の地震性隆起)：熊木洋太

◇地震防災対策セミナー—南海地震発生時の死者ゼロを目指して— 平成18年11月12日 徳島東急イン(徳島県徳島市)

- ・地震発生について最近わかってきたこと：熊木洋太

◇Asia-Pacific Remote Sensing 2006 (アジア太平洋リモートセンシング会議2006) 平成18年11月13日～17日 マリオットリゾートホテル(インド国ゴア市)

- ・Paddy ground truth data collection and evaluation for land cover mapping (土地被覆図化のための水田グラントゥルースデータの収集と評価)：佐藤浩・建石隆太郎(千葉大学)・肖捷穎(千葉大学)
- ・Interpretation of high-resolution satellite imageries to detect the landform changes and disaster damages—Case study of the northern Pakistan earthquake— (高分解能衛星画像による地震による地形変化と被災状況の判読 —パキスタン北部地震の例—)：小荒井衛・佐藤浩・宇根寛・神谷泉

- ◇日本写真測量学会平成 18 年度秋季学術講演会 平成 18 年 11 月 23, 24 日 松江勤労者総合福祉センター (島根県松江市)
 - ・地方自治体における基盤地図情報を活用した共用地図利用システムの構築：小荒井衛・福島康博 (企画部)・鈴木宏昭 (測図部)・飯村威 (地理情報部)・河瀬和重 (地理情報部)
 - ・レーザ計測データによる土砂災害道路抽出の試み：長谷川裕之
 - ・実データを用いた ALOS PRISM の標定等に関する研究：神谷泉
- ◇Journée Scientifique Francophone 2006 (フランス人研究者会合 2006 年) 平成 18 年 12 月 1 日 東京大学本郷キャンパス (東京都文京区)
 - ・Les ondolettes sur la sphere: une nouvelle représentation du champ de pesanteur terrestre (球面ウェーブレット：地球重力場の新しい表現)：Isabelle Panet, Yuki Kuroishi, Olivier Jamet (IGN・フランス国土地理院), Michel Diament (IPGP・パリ地球物理研究所)
- ◇第 16 回環境地質学シンポジウム 平成 18 年 12 月 8, 9 日 日本大学文理学部百周年記念館国際会議場 (東京都世田谷区)
 - ・環境保全・国土保全の視点からの国土変遷アーカイブデータの活用：小荒井衛・長谷川裕之
 - ・高分解能衛星画像を活用した災害状況の把握と災害判読特性の比較：小荒井衛・佐藤浩・天野一男 (茨城大学)
- ◇2006 AGU Fall Meetings (2006 年 AGU 秋期大会) 平成 18 年 12 月 11 日～15 日 モスコーンセンター (アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ)
 - ・Relation between the Earth's Spin Rate and Jet Streams (地球の自転速度とジェット気流との関係)：眞崎良光
 - ・Intercomparison of annual loading deformation detected by various space-geodetic techniques (季節的上下変動の相互評価)：宗包浩志
 - ・Creep deformation on the Longitudinal Valley eastern Taiwan detected by SAR interferometry (干渉 SAR で捉えた台湾 Longitudinal Valley におけるクリープ変動)：矢来博司・宗包浩志・飛田幹男
 - ・Approach of regional gravity field modeling from GRACE data for improvement of geoid modeling for Japan (日本周辺のジオイド・モデル改良を目的とした、GRACE データによる地域的重力場決定のとりくみ)：黒石裕樹・F. G. R. Lemoine (米国ゴダード宇宙飛行センター)・D. D. Rowlands (米国ゴダード宇宙飛行センター)
 - ・Gravity signature of the Sumatra 2004 and 2005 of earthquakes: what we learn from a wavelet analysis of GRACE data (重力からみた 2004 年、2005 年スマトラ地震の特徴：GRACE データのウェーブレット解析から分かったこと)：Isabelle Panet, Valentin Mikhailov, Michel Diament, Olivier de Viron, Geoffrey King, Fred Pollitz, Matthias Holschneider, Richard Biancale, Jean-Michel Lemoine
- ◇アジア-太平洋地域における持続可能な開発のための統合的観測に関する GEOSS シンポジウム 平成 19 年 1 月 11, 12 日 第一ホテル東京シーフォート (東京都品川区)
 - ・ALOS Status and the Latest Results on its Applications for Geohazard or Environmental Studies (だいちの現状及びその自然災害や環境研究へ応用の最新結果について)：Makoto Murakami (村上亮)
- ◇北淡活断層シンポジウム 2007 平成 19 年 1 月 13, 14 日 兵庫県淡路市小倉・北淡震災記念公園セミナーハウス (兵庫県淡路市)
 - ・2005 年パキスタン北部地震による斜面崩壊の方位と地表変位の関係について：宇根寛・佐藤浩・飛田幹

男

- ◇公開講座 「地震と防災 -東南海・南海地震をたどる-」 平成19年1月28日 愛媛県女性総合センター（愛媛県松山市）
 - ・愛媛県とその周辺で発生する地震と地殻変動：村上亮
- ◇第4回北海道測量技術講演会 平成19年2月9日 札幌第一合同庁舎（北海道札幌市）
 - ・北海道の地殻変動：西村卓也
- ◇南関東アスペリティーIODP Proposal 707-Full (KAP) 改訂・検討ワークショップ 平成19年2月27, 28日 海洋研究開発機構東京事務所（東京都港区）
 - ・Southern Kanto Asperity Project: Aim of deformation monitoring (南関東アスペリティプロジェクト：地殻変動観測の狙い)：西村卓也
- ◇電子情報通信学会2007年総合大会 平成19年3月1日 名城大学天白キャンパス（愛知県名古屋市）
 - ・測位用ICタグテープの開発：神谷泉・小荒井衛・溝口永実（九州テン）・真島祐二（九州テン）
- ◇地殻応力の絶対量計測に関する研究集会 平成19年3月8, 9日 東京大学地震研究所（東京都文京区）
 - ・GEONETによって観測された歪速度と応力変化速度推定の試み：西村卓也
- ◇日本地形学連合2007年春季大会 平成19年3月18, 19日 京都大学宇治キャンパス（京都府宇治市）
 - ・硫黄島の最近の地殻変動と地表変位：宇根寛・大井信三
- ◇2007年日本地理学会春季学術大会 平成19年3月20日～22日 東洋大学（東京都文京区）
 - ・地震被害と土地条件との関係に関するGIS解析：小荒井衛・佐藤浩・宇根寛
 - ・国土地理院の国土変遷アーカイブ事業と景観研究へのデータの利活用：小荒井衛・河瀬和重（地理情報部）
 - ・旧版地形図・古空中写真の座標精度：長谷川裕之
 - ・白神山地・泊の平地区の地形分類図作成と地形発達に関する考察：佐藤浩・関口辰夫（地理調査部）・小荒井衛・八木浩司（山形大学）
- ◇日本天文学会2007年春季年会 平成19年3月28日～30日 東海大学（神奈川県平塚市）
 - ・VLBI観測で得られた地球自転速度変動と励起量におけるノイズの低減：眞崎良光